

普及情報

果樹回廊構想による地域振興

「果樹回廊構想」とは、普及センターが提唱した果樹推進、地域振興のキャッチフレーズである。宍粟郡内の棚田等を活用し、1町1品果樹栽培を関係機関と協力して推進している。

宍粟郡は5町からなり、「しそう森林王国」の言葉が示すとおり9割を森林が占め、水田の6割は棚田である。標高は約100mから650mで、日照、気温、用水条件は果樹栽培に適しているとは言えない。しかし、発想の転換により地域条件を克服し、都市との交流型農業に取り組んでいる。

1 1町1品果樹の選定と推進

山崎町では1960年から、ベリーAを中心にぶどう栽培が行われ、品評会も開催し品質向上に努めている。藤稔等大粒品種を導入し、品種構成も変わりつつある。販売は観光もぎとり園、道の駅等を活用した直売である。

安富町では1991年から、棚田の放棄田解消のためゆず栽培を行っている。町内6カ所のモデル園を設け、高齢者にも管理し易い低樹高栽培を普及している。将来は青玉生産や加工品の製造もめざしている。

一宮町では1992年より、棚田で主幹型仕立てのもの

も栽培に取り組んでいる。鹿による食害や病害虫被害などの困難を乗り越え、オーナー制の取り組みが定着しつつある。

波賀町では原観光りんご園が、1982年より栽培に取り組んでいる。標高は約525mで涼しく、近くに宿泊施設やサイクリングロード等が整備され、時間消費型の小規模リゾート地を形成。毎年2万人の来園がある。りんご栽培は周辺地域にも広がっている。

千種町では鳥獣害に強く、古くからある山椒を、転作強化に対応して1994年より本格的に栽培している。加工品に佃煮、山椒味噌等があり、香辛料としての加工も研究している。

それぞれの果樹の販売は、各町にある王国拠点施設等を活用している。

2 今後の方向

成功した事業もあれば、消えていく事業もある。しかし、時代のニーズと地域条件を考えた方向性は間違っていない。人に理解を促すキャッチフレーズで今後もなお一層、果樹の産地育成と中山間地の振興を推し進めたい。

澤田 亨（山崎普及センター）

表 1町1品果樹の現況

町名	樹種	主要品種	農家数	収穫期間	栽培面積
山崎町	ぶどう	ベリーA・藤稔	30戸	8/中～9/下	3.9ha
安富町	ゆず	木頭系	60戸	11月	5.5ha
一宮町	もも	八幡白鳳	6戸	7/下～8/下	0.8ha
波賀町	りんご	つがる・王林	76戸	8/下～11/中	4.5ha
千種町	山椒	朝倉山椒	72戸	5～6月	4.4ha



図 地域の名所となった原観光りんご園

ひょうごの農業技術 No. 100

平成10年11月1日（隔月刊）

1部 250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター (0790) 47-1117

兵庫県立北部農業技術センター (0796) 74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター (0799) 42-4880